



第72回日本皮膚科学会 中部支部学術大会  
ランチョンセミナー8

# 爪白癬の 完全治癒を 目指して2021

～私ならこう治療する～

本セミナーはライブ配信も実施しております。

詳細は「第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会ホームページ(<https://cjda72.jp/>)」よりご確認ください。

## Program

座長

**宮地 良樹** 先生

静岡社会健康医学大学院大学 学長・京都大学 名誉教授

講演

1

**爪白癬治療における  
ICのポイントについて**

演者

**柳原 茂人** 先生

近畿大学 医学部 皮膚科学教室 講師

講演

2

**完全治癒を目指した  
爪白癬治療戦略**

演者

**福山 國太郎** 先生

関西ろうさい病院 皮膚科 部長

日時

2021年

**11月21日(日)**  
**12:00-13:00**

会場

奈良県コンベンションセンター  
C会場 2F 会議室204

共催：第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会 / 佐藤製薬株式会社 / エーザイ株式会社



第72回日本皮膚科学会 中部支部学術大会  
ランチョンセミナー8

# 爪白癬の完全治癒を目指して2021 ～私ならこう治療する～

講演  
1

## 爪白癬治療におけるICのポイントについて

演者 柳原 茂人 先生 (近畿大学 医学部 皮膚科学教室 講師)

2019年に10年ぶりに皮膚真菌症の診療ガイドラインが刷新され、内容が盛りだくさんとなった。爪白癬治療についても評価され、クリニカルクエスチョンが追加されている。従来、爪白癬に対しては経口抗真菌薬の内服治療が原則とされていたが、外用抗真菌薬が上市されたことで、内服ができない、あるいは希望しない患者に適応してもよいとされた。しかし、外用抗真菌薬の完全治癒率は比較的低く、経口抗真菌薬は推奨度A、外用抗真菌薬は推奨度Bとされた。演者の施設でも、年余にわたり外用抗真菌薬を漫然と処方している症例をよく目にする。経口抗真菌薬に対する負のイメージが患者、医師双方にしみついているのではないかと考えている。爪白癬を治癒させず放置しておくことのリスク、安全性と有効性を兼ね備えた経口抗真菌薬の存在など、内服療法に際してのICのポイントについて述べたい。

講演  
2

## 完全治癒を目指した爪白癬治療戦略

演者 福山 國太郎 先生 (関西ろうさい病院 皮膚科 部長)

爪白癬治療を効果的に行うためには病型診断から治療を考えるとよいと思う。一般的な病型と爪甲剥離型やDermatophytomaといった亜型について知る必要がある。SWOは外用治療が基本であり、Dermatophytomaは物理的治療と外用治療併用が勧められる。それ以外の病型は内服薬が第一選択であり、軽症のDLSOについても同じである。ネイリン国内第Ⅲ相臨床試験の解析では軽症ほど治療反応性がよく、完全治癒率が上がることが示された。爪甲混濁部面積比に基づく重症度別の解析において、投与開始48週後の完全治癒率は、50%未満群64.9%、50%以上75%未満群61.5%、75%以上群33.3%であった。重症化する前に治療を行うことが合理的であると考えられる。TDOは他の病型の爪白癬が進行した形態であり、治療に難渋することが多い。また治療に悩む症例についても提示する。爪白癬以外の爪疾患、特に爪甲鉤弯症との合併例は多い、その場合はどのように治療すべきか。多趾爪病変があり、いくつかの病型が混在しているときなどはどうすべきかなどについて自験例を交えながら、治療のポイントやホスラブコナゾール使用に際しての副作用マネジメントにおける注意点などについて私の考えをお話する。